

# やの 矢野 しちさぶろう 七三郎(1855~1889)



**伊予ネルの創始者。**野間郡宮脇村(現、今治市)出身。今治では江戸時代、綿の栽培が盛んで、白木綿が全国で売られていたが、明治に入ると、関西地方の安くて質のよい製品に押され、さらに外国からの輸入によって白木綿は売れなくなった。七三郎は、家業の海運業や酒造業に携わっていたが、今治特産の白木綿の衰微を憂い、家業を弟に譲って白木綿の生産に従事して新しい織物の方向性を探求し、紀州ネル(平織紀州ネル(平織りの両毛ネル))に着目した。明治18(1885)年、同志3名と和歌山へ赴き、ネル工場で働いて製綿技術を学び、翌年1月、再度単身で現地へ行って製織技術を研究して紀州ネルを改良した「伊予ネル」という新製品を生み出した。そして染色、毛搔き職人を各2名雇い、機械8台を購入して帰郷し、同年3月、今治に工場を建設して製織を開始した。工場の完成直前に、暴風雨で倒壊するという不運もあったが、これに屈せず努力し、伊予ネルは次第に認められるようになった。七三郎は、伊予ネルの製造技術を周囲の人々に惜しまずに教えて奨励したため、今治地域に織物産業が定着する契機となった。

明治22(1889)年、凶刃に倒れ、非業の死を遂げた。

## 略 歴

安政2(1855)年5月	野間郡宮脇村に生まれる。
明治15(1882)年	家業の造り酒屋を弟に譲り、今治に出て、白木綿の生産に従事
明治18(1885)年	和歌山のネル工場で働き、製織技術を修得
明治19(1886)年1月	再度単身で現地へ行って製織技術を研究、染色、毛搔き職人を各2名雇い、機械8台を購入して帰郷
3月	今治に共同で興修社(のちの興業舎)創立。伊予ネルの製造を開始するが、販売不振のため、共同参加者が撤退。その後、独力で新工場建設に着手するが、完成目前に暴風雨の影響で工場全壊。再度、工場を建て直し、染色ネルの製品の開発と販売開始(各地で売れ行き好調)
明治22(1889)年	染色ネルの1日の生産量は、明治19年の開始の年の5倍に増加
12月24日	自宅に侵入した凶漢に襲われ、35歳で永眠
明治40(1907)年	産業功績者として農商務大臣賞受賞

(写真提供：今治織物工業協同組合)

### 〈関連図書〉

- ・越智斉『今治織物組合90年史』今治織物工業協同組合 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・阿部亜遊馬『首倡功』加藤タイプ 1991年
- ・越智斉『百年の歴史』今治織物工業協同組合 1995年

〈ゆかりのある場所〉…(P281, 71~72)